

魚崎町
防災福祉コミュニティ
地域おたすけガイド

(地区防災計画書)

2024年9月改訂版

魚崎町防災福祉コミュニティ

*地域おたすけガイドとは？	-----	1
*魚崎地区はこんなところ		
*地区の危険		
*災害時の避難の考え方		

*平常時における防災福祉コミュニティ活動	-----	2
----------------------	-------	---

*南海トラフ巨大地震	-----	3
*魚崎地区への影響		
*津波に関する知っておくべき知識		

*防災福祉コミュニティ運営本部設置基準	-----	4
*防災福祉コミュニティ活動方針		
*活動参集場所等一覧		

*魚崎町防災福祉コミュニティとしての活動	-----	5
*運営本部・ブロック本部		
*全町共通		
*魚崎南地区	-----	6
*魚崎中地区	-----	7
*魚崎北地区		

*運営本部・ブロック本部「状況判断&活動指示」	-----	8
-------------------------	-------	---

*活動班「消火活動」	-----	9
------------	-------	---

*活動班「救出活動」	-----	10
------------	-------	----

*活動班「応急手当&搬送活動」	-----	11
-----------------	-------	----

*見回り班「警戒&要援護者支援」	-----	12
------------------	-------	----

*避難所運営班「避難所運営」	-----	13
----------------	-------	----

*災害時要援護者とは	-----	14
*福祉避難所について		
*避難情報 警戒レベルについて		
*避難の4行動 ～避難所に行くだけが避難ではない～		

*LINE オープンチャット	-----	15
----------------	-------	----

地域おたすけガイドとは？

区役所や消防署などの行政機関が一時的に機能不全に陥る規模の大災害が起こった際には、住民同士の助け合いが必要となります。

このガイドは、主に発生が危惧される南海トラフ巨大地震への対処を念頭に、地域の自主防災組織である「魚崎町防災福祉コミュニティ」の役割と平常時の活動および南海トラフ巨大地震発生時の活動をまとめた行動指針です。

魚崎地区はこんなところ

魚崎地区は、西は住吉川河口両岸から東は天上川まで、国道2号線を北限とする地域です。南部を国道43号線と阪神電車が横切り、住吉川沿いに六甲ライナーが走っています。標高は、瀬戸公園1m、魚崎小学校6m、灘高校20m程度です。

1万強の世帯に2万5千人ほどの人が住んでいて、住民の7割弱が3階建て以上の集合住宅に住んでいます。生まれてからずっと同じ家に住み続けている人は1割弱ですが、4割強の人が10年以上同じ家に住み続けています。65歳以上の高齢化率が年々上昇しています。

魚崎地区の災害危険

- 阪神電車より南側で天上川の西側に位置する一帯は、豪雨時に天上川や側溝から水が溢れ出し浸水する恐れがあります。同じように魚崎南町7丁目付近でも、側溝から水が溢れ出す恐れがあります。また、魚崎中町2丁目では、過去に雨水管から水が溢れ出たことがあります。
- 住吉川は、上流での降雨により急激に水かさが増すことがあります。
- 地震で海沿いの防潮堤が破壊された場合や防潮鉄扉が閉まらなかった場合、阪神電車より南側一帯は浸水深1~2m程度の津波に襲われる危険があります。

毎年6月頃に神戸市から配布される**ハザードマップ**を確認し、地震や津波、風雨への警戒を怠らないようにしましょう。

災害時の避難の考え方

津波が起こらない地震や高潮や高波などの風水害が発生しても、建物が頑丈で被害がなければ、必ずしも避難所に行かなければならないわけではありません。例えば、台風や豪雨時に自宅周辺に浸水の危険があっても、予想される浸水深より高い階に住んでいて、しかも水がひくまで十分な食料と飲料水を準備し、トイレの対策もできれば、自宅に留まる「**在宅避難**」を選択することも可能です。

ただし、**南海トラフ巨大地震は例外**として、**阪神電車より南側にお住まいの方々は全て、津波の危険が無くなるまで最低でも阪神沿線北側まで水平避難**してください。

平常時における防災福祉コミュニティ活動

地域防災は次世代に「たすき」をつなぐリレーです。防災福祉コミュニティとして南海トラフ巨大地震がいつ起きても、その時に魚崎地区で暮らしている人たちが助け合えるように、平常時には以下の活動をおこない次世代へ継承します。

1. 災害対応訓練の実施（技術の継承）

大災害時の助け合いに必要な具体的な技術を継承するために、年に一度の総合防災訓練と、適宜、地区または訓練内容毎のブロック訓練を企画し実施します。

総合防災訓練では、各地区がそれぞれの地区の特性に合わせた訓練部分を主導する役割を担います。

訓練内容	主導する地区
消火・救助・救護・搬送	魚崎北地区
避難所開設・運営	魚崎中地区
津波避難	魚崎南地区

2. 防災資機材の維持管理と拡充（資機材の継承）

災害対応に必要な資機材を、それらを収納している倉庫の鍵を含め、訓練等で定期的に使用確認し、いつでも使える状態に維持管理します。災害時の活動に必要なと思われる資機材は、助成金等を活用して新たに購入し充実させていきます。

3. 持続可能な組織と仲間づくり（組織の継承）

防災福祉コミュニティは地域防災の拠り所です。現在活動している私たちがいなくなった後も活動が継続されるよう常に新しい人材を探し、受け入れる開かれた組織であり続けます。さらに地域内では、日頃の活動には参加できなくても、災害時に声をかければ助け合いに協力してくれる顔の見える関係づくりを進めます。

4. 認識の共有（共通認識の継承）

津波時の阪神電車より北側への避難行動や避難所の考え方、大災害時の各地区の役割と訓練分担、在宅避難を可能にする備え、災害時の助け合いの必要性など、魚崎地区で暮らす全ての住民が知っておくべき事柄について、継続した周知活動をおこないます。

南海トラフ巨大地震

南海トラフ巨大地震は、周期的に発生する海溝型の地震です。陸側のユーラシアプレートが海側のフィリピン海プレートの引きずり込みに耐えられなくなった時、限界に達して跳ね上がり**地震**が発生するとともに、その上部にある海水が盛り上がり巨大な**津波**が発生します。津波は第1波が一番大きいとは限らず、50～60分間隔で何度も来襲し、少なくとも5～6時間は異常な潮位変動がみられます。この地震による揺れと津波により、東海から九州までの非常に広い範囲に、甚大な被害が発生することが予想されています。

魚崎地区への影響

かなり近い将来に発生することが危惧されている南海トラフ巨大地震は、魚崎地区一帯にも大きくゆっくりとした**震度6弱**の揺れを**1～2分**程度引き起こし、その後、沿岸部には、およそ**110分**後に高さ**3.3m**の津波が到達すると予想されています。

現在、防潮堤は神戸市によって1000年に1度クラスの地震・津波でも決壊しない補強と、地盤沈下でも必要な高さを保持する「かさ上げ」がなされています。また、防潮鉄扉や水門は、遠隔操作で閉鎖する等の対策がとられています。

しかし、万が一、防潮堤が破壊された場合や防潮鉄扉が閉まらなかった場合、阪神電車より南側一帯は**1～2m**程度の**津波**に襲われる可能性があります。

津波に関する知っておくべき知識

- 津波は巨大な水の塊で、高潮や高波とは桁違いの**破壊力**がある。
- 津波が来る前に一旦水面が下がる「**引き波**」は、いつも起こるとは限らない。
- 津波の浸水高が**30cm**で人は立っていられず、**50cm**になると車が流される。
1mの浸水高に巻き込まれた人は、ほぼ**100%死亡**する。
- 木造住宅は1mの浸水高で破壊され始め、2mで押し流される。
- 津波からの避難には、建物の上階に逃げる**垂直避難**と、歩いて高所に逃げる**水平避難**がある。
- 地震により発生した火災は津波では消えず、押し流されながら燃え広がる**津波火災**を引き起こす可能性がある。

防災福祉コミュニティ運営本部設置基準

- ・震度6弱以上、もしくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表され、地震による災害が発生し、または災害が拡大する恐れがある場合。
- ・神戸市に特別警報または高潮警報が発表され、防災福祉コミュニティ会長が必要と判断した場合。

防災福祉コミュニティ活動方針

周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、絶対に無理をせず、必ず複数で行動、できる範囲で活動しましょう。

活動参集場所等一覧

運営本部設置場所	魚崎小学校（中町 4-10-8）		
	一時集合場所	防災資機材庫 配置場所	耐震性防火水槽 小型動力ポンプ備付
川井公園（北町 2-7-1）	○	○	○
中町公園（中町 4-4）	○	○	—
中町小公園（中町 1-10）	○	○	—
西町公園（西町 4-3）	○	○	—
新堀公園（南町 7-3-15）	○	○	○
浜公園（南町 2-9-2）	○	○	○
五百池公園（南町 3-22-4）	○	○	○
西浜公園（南町 4-6-8）	○	○	○
清流プラザ（南町 5-14）	○	○	—
西町南公園（西町 2-1-2）	○	○	—
瀬戸公園（南町 2-3-1）	—	○	○

資機材庫のカギは最寄りの自治会長が保有する

緊急避難場所…一時的な避難場所 避難所…避難生活を送る場所	災害別適用			避難所 利用	
	土砂	洪水	津波		
緊急避難場所	魚崎小学校	○	○	○	○
	魚崎中学校	○	×	×	○
	東灘体育館	○	×	×	○
	灘中・高校	○	○	○	○

魚崎町防災福祉コミュニティとしての活動

魚崎町防災福祉コミュニティは、阪神電車より南側の一帯が津波浸水想定域であることを念頭に、南海トラフ巨大地震が発生し瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、防潮堤などの対策が機能しなかった状況でも誰一人として命を落とさないことを第一に考えて活動する。地震発生から60分が経過すると消防車や救急車などの消防車両も津波浸水想定域から退避することから、阪神電車より南側にいる全ての人に対して垂直避難ではなく、可能な限り一旦は最低でも阪神電車より北側へ水平避難することを呼びかける。

運営本部・緊急避難場所

- 魚崎小学校（中町4-10-8）に参集した防災福祉コミュニティ役員は、小学校内に運営本部を設置するとともに、避難所の開設作業に着手する。
- 灘中高校に向かう主に北地区の役員は、学校側から指定されたエリア内にブロック本部を設置するとともに、避難所の開設作業に着手する。
- 運営本部とブロック本部は、連携を密にして地域内での災害対応および避難所運営に当たる。
- 阪神電車南側の各地区住民は一時集合場所に集まり、速やかに地区統括リーダーを選出した後、地震発生後80分以内に阪神電車北側へ移動し、緊急避難場所である魚崎小学校を目指す。
- 防災資機材庫の鍵を保有している者は忘れずに持ち出す。

全町共通 ～まずは自分と家族の安全を確保～

- 火を使っていたら火を止める。できなければ揺れがおさまってから止める。出火したら小さなうちに消火する。
- テーブルなどの下に潜り、テーブルの脚をしっかりと握る。落ちてくる物や倒れる物が周りになれば、身をかがめてじっとしている。
- 割れたガラスに注意！揺れがおさまったら、すぐにスリッパを履く。
- 家屋の被害状況を確認する（ガス、電気、水道、ドアの状況）。
- スマホ等で情報を入手する。できなくても1分以上揺れが続けば南海トラフ地震と判断し、スマホで80分後（津波到達30分前）にアラームを設定する。
- 家を出る際は電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉める。
- 周囲の助けが必要な場合は、黙っていても分からないので積極的に助けを呼ぶ。

魚崎南地区

～津波からの水平避難を最優先～

津波第1波到達前

● 阪神電車より北側への避難行動

- 家にいる家族は一緒に行動する。
- スマホで地震発生 **80 分後**（津波到達 **30 分前**）に**アラーム**設定する。
- 自分が使う身の回り品や非常食は自分で持ち出す。
- 可能な限り垂直避難ではなく、**水平避難**を呼びかける。
- 各地区で定めた**一時集合場所**に集まり、速やかに**地区統括リーダー**を選出後、最低でも**阪神電車より北側**まで、拡声器等で避難を呼びかけながら避難する。
魚崎中学校、東灘体育館は津波時の緊急避難所でないことに注意。
- **魚崎小学校**を目的地とし、特に阪神電車北側に滞留しないように注意する。
- 近くに「**災害時要援護者**」がいることが分かっている場合は、**可能な範囲**で周りの人たちと協力して共に避難する。移動が困難な場合は上階で安全を確保させる。
- 共倒れを防ぐため、避難する意志のない者への説得に時間をかけない。
- 阪神電車より北側へ避難したら津波の危険が無くなるまで絶対に戻らない。

● 地区内での救出活動等

- やむを得ず地区内で活動する場合、高所に**見張り役**を配置し津波に警戒する。
- 近くの頑丈な建物上階に退避場所を確保し津波到達予想時刻前には**活動を中止して一時退避**し、津波が達しないことを確認する。その後も 50 分区切りで活動と一時退避を繰り返す。
- 防潮堤の状況は付近から避難してきた者から情報収集し、わざわざ見に行かない。
- 最沿岸部に居住し**防潮堤の被害状況**および**防潮鉄扉の稼働状況**を確認できる者は、避難する際に視認し素早く防災福祉コミュニティ**運営本部**に伝える。
- 防潮堤の壊滅的な被害もしくは防潮鉄扉の閉鎖不能を確認した場合は、避難の呼びかけおよび自らの避難を最優先する。

津波第1波到達後

津波の浸水が無かった（防潮堤が津波を防いだ）場合

- 津波到達予想時刻になっても津波の浸水が無いことが確認できれば、活動を再開する。ただし、津波警報が解除されるまでは、第2波、第3波に備えて50分区切りで活動と高所への一時退避を繰り返し、活動終了すれば**水平避難**する。
- 活動継続する場合は引き続き**見張り役**を高所に配置し、津波に警戒する。

津波の浸水があった（防潮堤が津波を防げなかった）場合

- 地域に津波の浸水があった場合、津波警報が解除されるまで高所に留まる。

魚崎中地区

～津波を警戒しつつ運営本部・避難所を開設～

- 中町 2 丁目、3 丁目の一部に津波が到達する可能性があるため、活動の際には**見張り役**を配置し津波への警戒を怠らない。
- スマホで地震発生 **80 分後**（津波到達 **30 分前**）に**アラーム**設定する。
- 地区住民に対して自治会が指定する一時集合場所に集合後、緊急避難場所（魚崎小学校・灘中高校）に水平避難するか、建物の 2 階以上に留まるよう呼びかける。
- 近くに「**災害時要援護者**」がいることが分かっている場合で且つ、緊急避難場所に移動させたほうが良い状況の場合は、**可能な範囲**で周りの人たちと協力して移動させる。
- **魚崎小学校**内に**運営本部**を開設し、情報収集を開始する。
- **魚崎小学校**内に、別に規定する**避難所開設・運営マニュアル**を活用して**避難所**を開設し、準備ができ次第、避難者を受け入れる（平常時はこれらの訓練を主導して実施する）。
- 協力者を募り、**消火・救護・救出・搬送**活動をおこなう。
- 津波到達予想時刻前には活動を**一旦中止**し、津波が届かないことを確認する。その後も第 2 波、第 3 波に備えて、津波警報が解除されるまでは 50 分区切りで活動と確認を繰り返す。
- 見張り役が津波の襲来を視認した場合、急いで拡声器等を用いて地上にいる人たちに最寄りの高所に避難するよう警告する。
- 阪神電車より南側へは立ち入らない。

魚崎北地区

～消火・救護・救出・搬送活動の中心～

- **灘中高校**内の学校側から指定されたエリア内に**ブロック本部**を設置するとともに、避難所の開設作業に着手する。
- 独自に周辺の被害状況等の情報収集をおこなうとともに、魚崎小学校に**運営本部**が立ち上がれば、スマホ・伝令等で情報共有をおこない、連携して活動する。
- 川井公園内の**防災資機材庫**を開錠し、資機材の持ち出し・使用を管理する。
- 協力者を募り、**消火・救護・救出・搬送**活動をおこなう（平常時はこれらの訓練を主導して実施する）。
- 近くに「**災害時要援護者**」がいることが分かっている場合で且つ、緊急避難場所に移動させたほうが良い状況の場合は、**可能な範囲**で周りの人たちと協力して移動させる。
- 阪神電車より南側へは立ち入らない。

状況判断 & 活動指示

□ 運営本部

- 集まった役員で運営本部を立ち上げて活動を始める。
- 参集場所（魚崎小学校）の安全を確認する。
- 地図、ハザードマップ、記録用紙、筆記具、付箋、ボード等をセッティングする。
- 統括リーダーと各役割を決める。
- 集めた情報を整理して状況进行判断する。
緊急の内容は 119・110 へ通報する。
- 活動班に活動内容を指示する。

東 灘 区 役 所：841-4131
 東 灘 消 防 署：843-0119
 港湾局海岸防災課：595-6325
 東 灘 警 察 署：854-0110
 ※電話は通じない可能性大

統括リーダー	運営本部を統括し、他団体との情報共有や交渉をおこなう。組織としての最終判断を下す。
指 揮 班	活動班を編成し、具体的な活動内容と使用する資機材を指示する。
情 報 班	入手した情報を付箋に書き、地図に貼っていく。見回り班や他団体、ラジオ等から情報を入手する。
記 録 班	被害状況や助けが必要な人の情報を時系列と事案別に書いていき、整理して把握する。
活 動 班	防災資機材庫等の資機材を用いて、消火、救出、救護、搬送等の活動をおこなう。
見 回 り 班	地域内を見回り被害の情報を本部に伝える。併せて二次被害の警戒と要援護者の支援をおこなう。
避難所開設班	学校関係者や区役所職員と協力して避難所を開設する。避難者に活動への協力を呼びかける。
避難所運営班	避難者から協力者を募り編成。環境整備、清掃、物資の受け入れ・配布などをおこなう。

消火活動

- 多くの人に協力を求めて消火活動をおこなう。
- 燃えている建物内には進入せず、**屋外から放水**する。
- 火を**周りに拡げない**ことを優先し、隣の建物にも水をかける。
- 火にあおられないよう、**風下に入らない**。
- 退路（逃げ道）**を確保しておく。
- 人命危険、延焼危険共に無ければ無理せず、**飛び火のみ**処理する。

発生場所

状 況

手書き地図

消 火 手 段

選択 順位	名 称		備 考
	消 火 器		各建物に設置されているものを使用する。火災のごく初期のみ有効。
	スタンドパイプ		地中の水道管に消火栓から直結させて放水する。断水した地区では使えない。
	小型動力ポンプ		耐震性防火水槽がある公園に、ホース・ノズルと共に収納されている。
	バケツリレー		バケツをかき集めて大勢で実施する。水源は 学校プール か 住吉川（下流除く） 。
	屋内消火栓		建物に設置されている場合がある。停電すると使えない可能性が高い。

※使い方が分からない手段はやらない

救出活動

- 多くの人に協力を求めて閉じ込められた人を救出する。
- 必ず**軍手**と**ヘルメット**を装着する。
- 倒壊した建物の中には**潜り込まない**。
- 持ち上げた物の下に「手」を入れず、「**あて木**」を入れ倒壊を防ぐ。
- 足りない道具は皆で持ち寄る（ジャッキ、あて木の代用品等）。




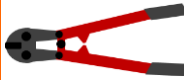






発生場所

状 況

手書き地図

防災資機材庫

鍵(かぎ) 開錠済み 要持参

	バール			のこぎり	
	ジャッキ <small>※車に積載されている</small>			ボルトクリッパー	
	つるはし			チェーンソー <small>※必ず保護衣を着装</small>	
	おの			シャベル	
	ハンマー			ロープ	

※使い方が分からない道具は使わない

応急手当 & 搬送活動

- 多くの人に協力を求めて応急手当と搬送をおこなう。
- 素手で血液に触れない。ゴム手袋を装着するかビニール袋で手を包む。
- 必要な資機材を調達する（救急セット、AED、簡易担架等）。
- 正規の資機材が無ければ身の回りにある物を工夫して活用する。
- 重傷者は医療機関に搬送する。

発生場所

状 況

手書き地図

応急手当

<input type="checkbox"/>	出 血	傷口に清潔なガーゼをあて、手で圧迫して止まるまで押さえ続ける。	ガーゼ・三角巾・ゴム手袋 ハンカチ・ラップ・ビニール袋
<input type="checkbox"/>	骨 折	折れた部位に副子(そえ木)をあて、三角巾などで固定する。	副子・三角巾 雑誌・段ボール・傘・ラップ
<input type="checkbox"/>	捻 挫	可能であれば冷却した後、三角巾などで固定する。	三角巾・(氷) ラップ・テーピングテープ
<input type="checkbox"/>	や けど	可能であれば流水で衣服の上から冷やし、清潔なガーゼで保護する。	水道水(流水)・ガーゼ・(氷) ペットボトルの水・ハンカチ
<input type="checkbox"/>	心肺停止	胸骨圧迫(30回)と人工呼吸(2回)を繰り返し、AED到着すれば実施。	AED ※人工呼吸は無理してしない

搬 送 搬送先

担 架 搬 送	防災倉庫の簡易担架を使って搬送する。	毛 布 搬 送	4人以上で毛布の両端を丸めて持ち上げる。
イ ス 搬 送	イスに座らせ、複数でイスを持ち上げる。	徒 手 搬 送	複数で体の下に手を差し入れ、水平に抱える。

警戒 & 要援護者支援

- 複数名で地区内を見回り、被害の情報を本部に伝える。
スマホやSNSがつながらなければ伝令を走らせる。
- 二次被害の警戒と要援護者等の支援をおこなう。

見回り区域

手書き地図

警戒活動 ※ハンドマイク、スマホ、メモ帳等を携帯する

<input type="checkbox"/>	火 災	煙の立ち上り、煙臭さに注意して見回る。発見すれば本部に連絡するとともに 119 通報し、可能な限り初期消火を開始する。
<input type="checkbox"/>	ガス漏れ	ガス臭に注意して見回る。発見すれば本部に連絡するとともに 119 通報し、近づかないよう周りに呼びかける。
<input type="checkbox"/>	建物倒壊 通行障害	倒壊した建物や通行できない道路の情報を本部に伝える。 倒壊した建物内に閉じ込められた人がいないか呼びかける。
<input type="checkbox"/>	呼びかけ	ハンドマイクを使って危険箇所への警戒、避難する際はガスの元栓を締め、電気ブレーカーを落とすよう呼びかける。
<input type="checkbox"/>		

要援護者等支援 ※救急セット等を携帯する

<input type="checkbox"/>	安否確認	民生委員・児童委員等と協力して要援護者の安否を確認し、必要に応じて応急救護をおこなう。確認後、ドアに目印をつける。
<input type="checkbox"/>	介 助	避難困難者の手助け、付き添いをおこなう。搬送が必要な場合は本部に応援を要請する。

避難所運営

- 避難者はできる範囲で運営に参加する体制とする。
- 避難所内の配置は早い者勝ちにせず、**世帯単位**に各事情を考慮する。
- 避難所利用のルールに則り、**公平公正**な運営をおこなう。
- 個人のプライバシーを尊重し、必要以上に介入しない。
- 意思決定機関が高齢男性ばかりに偏らないよう**多様性**に配慮する。

□ 1人1人が自らできることを担う

□	避難者の誘導	受付で配置が決まった避難者を、決められた場所まで案内する。トイレ等の共用スペースの説明をする。
□	環境整備	間仕切り・掲示板・毛布・暖房機器等の必要資機材を倉庫等から取り出しレイアウトする。
□	危険除去	落下物や割れた物などの危険物を除去する。立ち入り禁止箇所に張り紙の掲示やロープを張る。
□	環境美化	トイレや通路等の共用エリアの清掃やゴミの処理は、全員が持ち回りでおこなう。
□	物資の受け入れ	区役所等から届く食料・物資を避難所内に運び入れる。
□	物資の配布	非常食や飲料水等を世帯毎に小分けして配布する。必要に応じて炊き出しをおこなう。
□	広報・情報収集	必要な情報やルールを、掲示板やSNSを使ってお知らせするとともに、要望等を収集する。
□	介助・見守り・話し相手	配慮が必要な避難者への介護を補助するほか、話し相手になったり、見守りをおこなう。
□	防火・防犯	火気の使用について見回る。人目のない場所やトイレ等、必要に応じて交代制などによる警戒をおこなう。
□	その他	避難所生活の運営・維持に必要なこと。

災害時要援護者とは

自力で避難することが難しい方など、災害が発生した際に安全な場所に避難したり、避難所での生活に困難が生じ、周りの人の助けを必要とする方々を言います。

福祉避難所について

神戸市では、避難所での生活に何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなどを「福祉避難所」に指定しています。入所対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、お願いします。

※福祉避難所は、災害時に常に開設される訳ではありませんので、まずは一般の避難所へ避難していただくことになります。

※地域福祉センターは、対応可能な人員や物資の確保が出来る場合、地域独自の判断で開設いただくことも可能ですが、区災害対策本部と十分ご協議ください。

避難情報 警戒レベルについて

警戒レベル		意味
5	<small>きんきゅうあんぜんかくほ</small> 緊急安全確保	すでに災害が発生したか切迫していて命が危険な状況。屋外への避難はできず屋内でできる限りの行動を取る。
—— 警戒レベル4までに必ず避難行動を終える ——		
4	<small>ひなんしじ</small> 避難指示	災害が発生する可能性が高いため、発令された地区の全員が避難行動を取る必要がある。
3	<small>こうれいしゃとうひなん</small> 高齢者等避難	災害が発生する可能性があるため、発令された地区で避難に時間がかかる人は避難行動を開始する。

避難の4行動 ～避難所に行くだけが避難ではない～

- 行政が指定した小学校などの避難所に行く避難
- 安全な親戚や知人宅に行く避難
- 安全なホテル・旅館に宿泊する避難
- 安全な場所に立地し、被害の恐れがない場合の在宅避難

LINE オープンチャット

魚崎町 防災福祉コミュニティ

大勢の人がトークルーム内で情報共有できます。友だち登録不要で、プロフィール（名前）を自由に設定して使用できます。大災害発生時の住民同士で助け合うためのツールとして、専用のオープンチャットルームを開設します。

- **登録方法** ※LINE 未使用の方は、事前にアプリのインストールが必要です。
 1. 下の QR コードを読み込み、[ウェブサイトを開覧] を押します。
 2. トークルーム参加画面が出てくるので、[参加] を押します。
 3. プロフィール画面が出てくるので、ニックネーム（名前）を入力します。
「名前@〇〇町」もしくは「名前@〇〇班」としてください。
名前は本名でなくても構いませんが、町名・班名は正しくお願いします。
 4. 名前を入力して[完了] を押し、トークルーム画面が出てきたら利用可能です。



- **災害時の活用方法**

地区内でご自身の目で、以下のような状況を確認した場合、その内容をルームに簡潔・正確に書き込むとともに、119 通報してください。

- ・ 隣の家が倒壊している、煙が上がっている、などの**災害情報**
- ・ 大ケガをした人がいる、閉じ込められた人がいる、などの**人の情報**
- ・ 道が塞がれている、電線が切れている、などの**危険情報**
- ・ その他、トイレが使える、水が出る、資機材の在処、などの**役立つ情報**
大切な情報を埋没させないために、「了解」などの返答の書き込みは不要です。

- **注意事項**

- ・ 通信事情により繋がらない場合は、ブロック本部に走って知らせてください。
- ・ SNS の情報が**人の生死**に直接関わります。虚偽の情報や曖昧な情報は絶対に流してはいけません。
- ・ 魚崎小学校区在住者以外の方をルームに招待することや、上記の QR コードや参加コードを教えることはしないでください。